

# もう一つの堀川

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館

はじめに 京都は1200年もの間大都市であったことから、大火や戦乱により大きな変動をたびたび受けました。しかし、平安京の大路小路の名残りがいたるところで確認できます。

京都市内を南北に走る幹線道路の一つに堀川通があります。通り名の由来となった堀川は道路の東側を流れていますが、今では暗渠化が進み、わずかに今出川通から御池通の間で水路が見られるのみです。

二つの堀川 堀川通は平安時代、堀川小路という街路でした。位置はやや西寄りになっていますが、堀川にかかる一条戻橋は、造営当時の位置をおおよそ留めています。

平安京には、もう一つの堀川小路がありました。それは、朱雀大路をはさんだ対称位置にある右京の西堀川小路です。こちらは現在の道路と重なる部分はわずかで、さらに川も北側の一部に残るだけとなり、地上からはほとんどその痕跡がわかりません。

堀川の構造 『延喜式』の「京程」に、堀川小路は「幅四丈、東西辺に各二丈加える」と記されていることから、小路といえども大路規模の八丈(約24m)の道路幅をもつことがわかります。

東西の堀川小路は、他の街路とは違った構造をしており、道路の

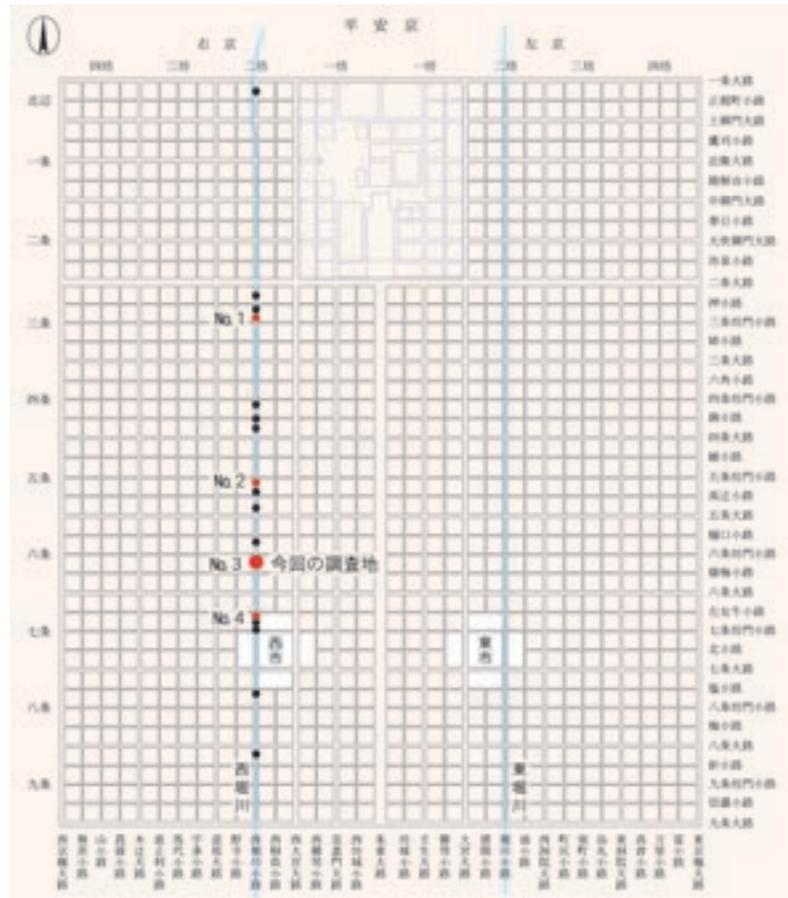


図 平安京と二つの堀川の推定位置(●は調査地点)

中央に堀川という河川が切り開かれ、その東西に路面および側溝と築地が配置されていました。また、堀川はその名が示すように、平安京の造営時に人工的に開かれた水路で、物資の運搬に利用されていたようです。

川と街路を発見 2007年3月末から西大路五条の交差点の東側で、国道の拡幅にともなう発掘調査を行ないました。調査地は、平安京右京六条二坊の六町・十一町そして、西堀川小路にあたる地点です。ここで、平安時代前期の宅地跡と

ともに、南北方向の河川・道路・道路側溝などの跡を発見しました(図・3)。東側溝は道路脇の排水溝で、幅約1.5m・深さは0.2mです。上部が中世に削平されており、底部のみが残っています。東側路面の幅は、約6mありました。上部が削平されたため、路面敷は残っていません。

西堀川の跡は、幅約14~16m・深さは約1.8mありました。東肩部は、ほぼ推定位置で検出しましたが、西肩部は西側に大きく拡がって西側路面は消失し、小路西築



今回の調査・図の 3地点（西から）



右京三条二坊十五町の調査・図の 1地点（北から）

地の推定位置付近で検出しました。下層は9～10世紀初めの遺物を含む褐色系の砂礫が堆積し、中層には12世紀の遺物を含む黒色系の泥土が厚く堆積しています。上層は褐色系の室町時代の整地層となります。中層の泥土堆積は、すでに水の流れがなく淀んでいたことを示しています。南側の川底で延喜通寶（初鑄907年）が10枚まとめて出土しました。また、六町内では、南北方向の内溝・建物・井戸・土壌などを検出しました。調査の結果、西堀川小路は宅地部分

とともに10世紀初めころに廃絶していることがわかりました。

西堀川小路の検出例 これまでの発掘調査でも、西堀川小路の道路と川をそれぞれ発見しています。三条付近では、西側路面が幅6m、東側路面が2m以上、中央に幅6mの川跡（図・1）。五条付近では、東側路面が幅6m、川幅14m以上（当初は6m）（図・2）。七条付近では、東側路面が幅3m、川幅24m以上となり、洪水によって川は西側に大きく広がっていました（図・4）。東側路面は、

いずれの調査でも見つかっていませんが、西側路面は三条の調査のみで発見しました。また、川は五条から南側では西に大きく拡がり、さらに、西側路面は六条より南では消失していました。

天神川（紙屋川）では、西堀川は、現在どうなっているのでしょうか。堀川と同様に、一条通付近にその姿を留めています。丸太町通りの北側では、紙屋川がこの西堀川にあたります。北野天満宮の西を南西に流れる紙屋川を、一条大路にかかる部分から南方向に付け替えて運河とし、両側に道路を付けて西堀川小路としたのです。

しかし、平安時代中期以降には、右京の荒廃にともなって西堀川は整備されなくなり、流れは途絶えて道路も断絶し、平安時代後期にはその存在はほとんど忘れ去られてしまいました。

おわりに 今回の調査では、西堀川の川底からは日常使用した土器類にまじり、ミニチュアの木製船や延喜通寶が出土しています。

これらは、水辺の祭祀にともなうものと考えられます。この西堀川は、運河として開削され多くの物資を輸送しただけではなく、平安京の住民にとっては祭祀を行なう場所でもあったのでしょうか。

現在、北区の市立北野中学校の東側では「堀川町」の地名が残っています。また、下京区の七条第三小学校の近くでは、以前「ほりこ川」という川が流れていたそうです。このように、西堀川は1200年後にも部分的にその痕跡を残していました。（小檜山一良）